

※地域アンケートの集計状況(平成28年6月24日現在)

バス路線(愛称)		下山地区線(ささゆりバス)	形埜地区線(乙川バス)	宮崎地区線(のってこバス)	豊富・夏山地区線(ほたるバス)	
アンケート回収率		132世帯／202世帯(65. 3%)	218世帯／378世帯(57. 7%)	320世帯／410世帯(78. 0%)	豊富学区 764世帯／1, 254世帯(60. 9%)	夏山学区 100世帯／178世帯(56. 2%)
世帯員全員が運転免許証を所有していない世帯		2世帯／132世帯(1. 5%)	13世帯／218世帯(6%)	20世帯／320世帯(6. 3%)	50世帯／764世帯(6. 5%)	2世帯／100世帯(2%)
基幹路線バスとの乗換便利が図られれば、コミュニティバスを利用する世帯		●4世帯(3%)が、基幹路線バスとの乗換利用したいと回答 運行希望時間 行き 6時台 3世帯 帰り 16時台 2世帯 18時台 2世帯	●25世帯(12%)が、基幹路線バスとの乗換利用したいと回答 運行希望時間 行き 7時台 10世帯 帰り 17時台 7世帯	●53世帯(17%)が、基幹路線バスとの乗換利用したいと回答 千万町地区では24世帯が利用したいと回答 (千万町地区全体36世帯の約3分の2が回答)	●85世帯(11%)が、基幹路線バスとの乗換利用したいと回答 運行希望時間 行き 6時台 9世帯 7時台 25世帯(※) 8時台 11世帯 帰り 18時台 17世帯 (※その内、基幹路線バスが運行している檜山地区の回答世帯数は13世帯)	●22世帯(22%)が、基幹路線バスとの乗換利用したいと回答 運行希望時間 行き 6時台 1世帯 7時台 6世帯 8時台 4世帯 帰り 15時台 4世帯
地域 アンケート 分析結果	バス運行見直しで重要と考える項目と回答者数	●診療所の便の利便性を高めることが最多 25名/68名 ●額田地域外の施設等へ直接運行することが次に多い(※) 23名/68名 (※)乗換なしで行きたい場所 東岡崎、Aコープ下山店、下山クリニック	●額田地域外の施設等へ直接運行することが最多(※) 67名/181名 ●診療所行きの利便性を高めることが次に多い 46名/181名 (※)乗換なしで行きたい場所 本宿駅、市民病院、岡崎げんき館、JRR岡崎駅、洞町、市民病院、美合駅、東岡崎駅、スーパー	●額田地域外の施設等へ直接運行することが最多(※) 71名/177名 ●診療所行きの利便性を高めることが次に多い 51名/177名 (※)乗換なしで行きたい場所 生活用品、衣料品等、市民病院、豊川市民病院、名鉄赤坂駅、本宿、Aコープ	●額田地域外の施設等へ直接運行することが最多(※) 137名/409名 ●通学・通勤目的に合わせた運行することが次に多い 116名/409名 (※)乗換なしで行きたい場所 本宿、市民病院、イオン、シビコ、りぐら、岡崎げんき館、岡崎駅、東岡崎、スーパー	●額田地域外の施設等へ直接運行することが最多(※) 27名/63名 ●通学・通勤目的に合わせた運行すること、フリー乗降区間拡大すること、診療所行きの利便性を高めることが次に多く、どの項目も12名/63名 (※)乗換なしで行きたい場所 本宿、市民病院
	予約型(デマンド型)運行について	約42%が予約型運行の導入に前向き	約65%が予約型運行の導入に前向き	約65%が予約型運行の導入に前向き	約58%が予約型運行の導入に前向き	約60%が予約型運行の導入に前向き
	その他(自由意見など)	●バス利用の対象者を高校生に絞る。 ●通勤時間帯に合うバスがない。	●運転ができなくなったら利用する。 ●バス利用では職場の就業時間に合わせられない。	●乗り継ぎ、目的地までの所要時間がかかる為、自家用車を利用してしまふ。 ●名鉄バスの時刻表はわかるが、のってこバスの時刻表がわからない。	●車に乗れなくなったら、ここには住めないと思うと不安だ。ほたるバスはどこからどこへ行けるのか分かりにくい。 ●通勤時間に合うバスと本数が増えれば利用が考えられる。	●通勤・通学時間帯にバスがあれば、車の送迎がなく楽になる。 ●在住25年になりますが、そもそもほたるバスの存在を知らない。
	運行の支援	●60世帯(45%)が、ささゆりバスの片道利用や回数券購入などによる運行支援を考えており、意識啓発による利用促進を図る余地が大きい。	●70世帯(32%)が、乙川バスの片道利用や回数券購入などによる運行支援を考えており、意識啓発による利用促進を図る余地がある。	●122世帯(38%)が、のってこバスの片道利用や回数券購入などによる運行支援を考えており、意識啓発による利用促進を図る余地がある。	●189世帯(25%)が、ほたるバスの片道利用や回数券購入などによる運行支援を考えており、意識啓発による利用促進を図る余地がある。	●35世帯(35%)が、ほたるバスの片道利用や回数券購入などによる運行支援を考えており、意識啓発による利用促進を図る余地がある。
	分析	●ささゆりバスは直接市街地へ運行しているためか、基幹路線バスとの乗換希望は、他地区の路線と比較し4世帯(3%)と少ない。	●基幹路線バスとの乗継利用では7時台が10世帯あり、乙川バスと基幹路線バスとの接続の検討や、需要に合った基幹路線バスのダイヤ設定などの検討が考えられる。 ●診療所行きの利便性を高めることの回答も多いことから、診療所行きの便の利用状況を把握し、より需要に合った運行を検討することが考えられる。	●千万町地区では基幹路線バスとの乗り継ぎ希望が多いことから、当該地区の需要に合わせ、基幹路線バスとのってこバスとの乗り継ぎの検討が考えられる。 ●診療所行きの利便性を高めることの回答も多いことから、診療所行きの便の利用状況を把握し、より需要に合った運行を検討することが考えられる。	●檜山地区には、7時台に本宿行きの基幹路線バスが運行している。檜山の住民が、基幹路線バスを把握していないれば周知を実施し、把握していれば需要に合った基幹路線バスのダイヤ設定などの検討が考えられる。	●本宿や市民病院へは基幹路線バスが運行しており、ほたるバスと基幹路線バスとの乗り継ぎにおける待合環境の改善に関する検討や、需要に合った基幹路線バスのダイヤ設定などの検討が考えられる。
診療所アンケート分析結果		●診療所への交通手段 バス8名、車10名 ●診察に掛かる時間 60分 7名/18名(38. 9%) 120分 2名/18名(11. 1%) ●バスを使わない理由 時刻表や運行経路に制約されたくないから 4名/10名(40%) 車が便利だから 4名/10名(40%) ●どうすれば診療所までバスを利用するのか 車に乗れなくなったら 9名/15名(60%) ⇒バスの不便さや、車の便利さを根本とした回答があった。年数回でもバスを利用する取組の検討が考えられる。	●診療所への交通手段 バス1名、車25名 ●診察に掛かる時間 60分 15名/29名(51. 7%) ●バスを使わない理由 診療の前後に、買い物や仕事へ車で移動するから 7名/33名(21. 2%) ⇒車の便利さを理由にバスを使わない理由もあるが、診療の前後に、他の目的地にも車で移動するためとの回答もあった。行きたい場所に乙川バスが運行していないため、利用しないと考えられる。	●診療所への交通手段 バス2名、車22名 ●診察に掛かる時間 120分 12名/37名(32. 4%) ●バスを使わない理由 診療の前後に、買い物や仕事へ車で移動するから。 11名/34名(32. 4%) ●バス利用のために必要だと思う事 診療時間中のバスの本数を増やす。 11名/18名(61. 1%) ⇒診療時間中の運行便数は行きと帰りで1便ずつであるため、診察に掛かる時間も考慮しつつ、利用需要に応じたダイヤ設定や、便数の検討が考えられる。	●診療所への交通手段 バス2名、車34名 ●診察に掛かる時間 60分 22名/50名(44%) ●バスを使わない理由 診療の前後に、買い物や仕事へ車で移動するから。 13名/60名(21. 7%) 家から星野クリニックまで近い。 13名/60名(21. 7%) ●バス利用のために必要だと思う事 自宅の近くまでバスが来る。 29名/61名(47. 5%) 診療時間中のバスの本数を増やす。 20名/61名(32. 8%) ⇒豊富学区の多くが、ほたるバスが運行していないためか、自宅近くまでバスが来るとの回答が最多であった。また、診療時間中に利用できるバスは行きと帰りで1便ずつであるため、利用需要に応じたダイヤ設定や、便数の検討が考えられる。	●診療所への交通手段 バス2名、車6名 ●診察に掛かる時間 60分 6名/8名(75%) ●バスを使わない理由 診療の前後に、買い物や仕事へ車で移動するから 3名/6名(50%) ●バス利用のために必要だと思う事 バスの運賃を安くする。 3名/8名(37. 5%) 自宅の近くまでバスが来る。 3名/8名(37. 5%) ⇒買い物先や仕事先の場所を把握し、利用需要についての検討が考えられる。
利用状況の課題 (※利用人数：平成27年6月～平成28年5月まで)		【運行日：月～金】 ●北部診療所バス停及び岡崎げんき館前バス停に利用が集中している。 ●8時50分北部診療所発の便はほとんど利用されていない。(3人/年) ●17時30分岡崎げんき館前発の便において、高校生の利用が6時40分桃ケ久保発の便よりも少ない。 高校生の利用： 6時40分桃ケ久保 1, 145人/年 17時30分発岡崎げんき館前発 (335人/年)	「共通」 北部診療所バス停に利用が集中している。 「南大須・鍛埜ルート」【運行日：月・火・木】 ●月曜日と火曜日は同じルートを運行しているが、北部診療所発(左回り)は月曜日は11時30分だが、火曜日は11時20分のため、ダイヤが分かりにくい。 「切山・小久田ルート」【運行日：水・木】 ●水曜日の利用がまったくない。(0人/年) 「毛呂・井沢ルート」【運行日：火・水】 ●水曜日の利用が少ない。 (火：129人/年、水：69人/年)	【運行日：月・水・木】 ●宮崎診療所バス停に利用が集中している。 ●月・水曜日の午後の利用がほとんどない。 (月の午後：19人/年、水の午後：5人/年) ●木曜日の利用がほとんどない。(17人/年)	鳥川地区(豊富学区の一部)【運行日：火・金】、夏山地区【運行日：火】 ●星野医院バス停およびJA額田支店バス停に利用が集中している。 ●鳥川地区のみを運行している金曜日の利用が少ない。(火：379人/年、金：70人/年) ●ほたるバスは運行開始当初はスクールバス機能を併せ持ち、鳥川地区の利用は想定できたが、豊富学区の多くの住民にとっては、ほたるバスの利用需要(星野クリニック、額田郵便局、額田支所等への移動は徒歩でも可能)は低く、くらがり線や額田支所市民病院線の利用を意識している。	
見直しの方向性		●通院目的に合わせたダイヤに変更するため、8時50分発を10時30分発に変更する。 ●11時45分発を12時発に変更する。(診察の時間が12時までであり、診察が長引いてもバスが利用できるようにするため。) ●高校生の下校において、バスが活用できるダイヤを検討する。	「共通」 ●基幹バス路線の利用につながるダイヤ設定の可能性及び利用意向について検討。 (地域アンケート結果より、一定の需要が見込まれるため。) ●地区内の施設(診療所など)への利用に合わせたダイヤを検討。 「切山・小久田ルート、毛呂・井沢ルート」 ●週2日運行を週1日運行に集約する。	●週3日運行を週2日運行に集約する。 ●地区内の施設(診療所など)への利用に合わせたダイヤを検討。 ●学区外施設(市民病院、本宿駅など)への運行及び、基幹路線バス路線の利用につながるダイヤ設定の可能性及び利用意向について検討。基幹路線バスについても、額田支所市民病院線への接続も併せて需要に応じたダイヤ等を検討。	●週2日運行を週1日運行に集約する。 ●地区内の施設(診療所など)への利用に合わせたダイヤを検討。 ●基幹バス路線の利用につながるダイヤ設定の可能性及び利用意向について検討。 (地域アンケート結果より、一定の需要が見込まれるため。)	
効果		●診察後のバスの待ち時間が短縮され利便性が向上する。 ●新たなバス利用者が見込まれ、収入増加により、収支率の改善が図られる。	●分かりやすいダイヤとなり、利便性が向上する。 ●形埜地区線全体の運行は週4日運行から週3日に集約され、運行経費が減少し、収支率の改善が見込める。 ●基幹路線バスとの乗り継ぎが改善されることで、基幹路線バスの利用者が増え、当該路線の収支率も改善が見込める。	●週3日運行が週2日運行に集約され、運行経費が減少し、収支率の改善が見込める。 ●基幹路線バスとの乗り継ぎが改善されることで、基幹路線バスの利用者が増え、当該路線の収支率も改善が見込める。	●週2日運行が週1日運行に集約され、運行経費が減少し収支率の改善が見込まれる。 ●基幹路線バスとの乗り継ぎが改善されることで、基幹路線バスの利用者が増え、当該路線の収支率も改善が見込める。	
地域協議会における住民の意見		●市民病院のバス停で、快速バスへの乗り換えが間に合わないときがある。 ●早い時間の診察を希望するため、1便目に利用が集中し、2便目の利用がない。 ●現在の運行ダイヤは、曜日によって運行内容が異なっているも、利用しやすいため、バス停ごとの発着時間を同じにしている。 ●つり革に広告を導入し、収入を増やすことなど考えたい。	●親が毎朝高校生を車で送迎している。 ●路線の見直しを図る際は、客観的な基準を設定することが必要ではないか。 ●地域住民が乙川バスを確保維持する気概がなければ、継続した運行は見込めない。	●木曜日の宮崎診療所は来院者数が多いが、バス利用は少ない。 ●北部診療所(形埜学区)のほうがりハビリを行うスペースが充実しているため、宮崎学区から車で通院している住民がいる。 ●名鉄バスのくらがり線に接続できない。	●週1日運行にすることで、収支率はどれほど増加する見込みなのか？(豊富) ●夏山学区内にはフリー乗降区間がないので、設定することはできないか？(夏山) ●高校生は親が送迎しているが、朝だけでもバスがあると良い。(夏山) ●星野クリニックでは、バス利用者は優先して診察してもらえるが、帰りのバスまでの待ち時間ができてしまう。以前は、バス停近くの喫茶店で待っていたが、お店が閉店したため、待合場所がなく困っている。(夏山)	